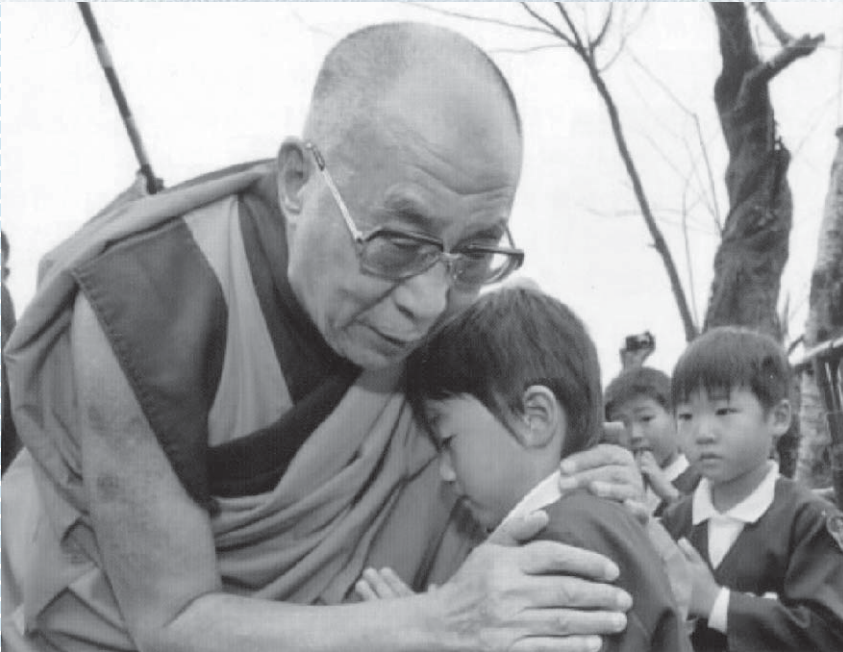


ダライ・ラマ法王 臨南寺へ 特別講演が決定



石巻・西光寺にて両親を亡くした子どもたちと。

ほろこ

No. 41
2014 Spring

がん しょう ざん
含松山
臨南寺

心を見つめて

「信心の本当の目的は、あなた自身をコントロールするためのものであって、他の人々を批判するためではありません。さあ、自分自身を見つめてみましょう。怒りをため込んではいませんか？ 執着心を持っているのでは？ 憎しみの感情に支配されているませんか？ おごりはないでしょうか？ 嫉妬心はどうでしょう？ これらは、毎日、自分に問いかけてみるべき質問です。あなたの身体と心を研究所だと考えてみましょう。自分自身の心がきちんと作動しているかどうか、しっかりとしたりサーチを続けていくと、あなたの中により変化が生まれてくることでしょうか」

これは「心を見つめて」と題するダライ・ラマ十四世の言葉です。四月に来日されるこの機会に臨南寺で講演していただくことになりました。

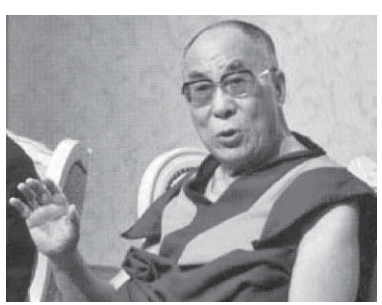
世界中に平和の心を発信

ダライ・ラマ十四世は一九三五年七月六日生まれ、幼い頃にダライ・ラマを継承されました。その後中国のチベット制圧とともにインドへ脱出、亡命政府の元首として、またチベット仏教の最高指導者として、世界中を歴訪され平和の心の大切さを発信し続けられています。

一九八九年には、世界平和やチベット宗教・文化の普及に対する貢献が高く評価され、ノーベル平和賞を受賞されました。

日本にも二十回以上来訪されています。特に東日本大震災には心を痛められ、二〇一一年四月二十九日には渡米の途中に立ち寄られ、東京の護国寺において「東日本大震災犠牲者四十九日特別慰霊法要」を執り行われています。

臨南寺ではどんなお話をしていたただけるのでしょうか、楽しみにしています。「ほろこ」四十二号でのご報告します。



春の彼岸会を

三月二十四日に修します。

今年の春分の日は三月二十二日です。この日を中心に関前後三日ずつをあわせた二週間が「お彼岸」です。今年は十八日から二十四日まで七日間です。

この行事は平安時代の初め朝廷で行われていました。鎌倉時代から武士にも広がり、江戸時代には庶民に普及しました。昼と夜の長さが同じになる春分の日には太陽が真西に沈みます。西方浄土を礼拝するのに最適な時期として定着したようです。

煩惱にあふれたこの世「此岸」に対して、「彼岸」は一切の執着から離れた安らかなあの世のことです。お彼岸は、亡くなった方のご冥福を祈る追善供養の時でもあります。

お彼岸には各地のお寺で法要が営まれ、先祖供養が行われます。臨南寺でも、三月二十日に彼岸会

写経会を開き、二十四日には午後一時から彼岸会施食会を修します。

彼岸会施食会では、亡くなられた方のご冥福を祈ってお経を上げ、先祖供養の法要を行います。家族そろって彼岸会施食会に参加し、ご先祖のお墓に参り、お仏壇に手を合わせましょう。当日ご都合の悪い方は、不参にてのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



彼岸会施食会に参って先祖供養いたしましょう。

寺南景 百景



鏡山部屋から

幕内力士誕生

大相撲大阪場所が三月九日から始まりです。いつものように二月には臨南寺境内に鏡山部屋がやっつきます。鏡山部屋は元横綱柏戸が創始した部屋で、現在の親方は元関脇多賀竜です。

その鏡山部屋から幕内力士が誕生しました。鏡桜関、二十六歳。モンゴルから来て十年目の昨年初場所、念願の十両に。外国人では二番目に遅い昇進でした。その後一年で幕内に上がりました。

昨年モンゴル出身の女性と結婚、今年一月には息子も生まれました。「守るべきものができたし、頭をつけて自分の相撲を取るだけ。幕内に

定着するよう頑張ります」と鏡桜関。そばから「怖いのは怪我だけ。四股、鉄砲、摺り足、それに勝ちたいという気力が大切だよ」と親方。体重一四〇キロ、身長一八二センチと幕内では小兵の部類、それだけに一層の精進が必要です。長居公園の土俵でも稽古しています。取組はNHKで見ることが出来ます。一つでも白星が先行するよう、私たちも応援したいと思います。



大阪場所勝ち越しを狙う鏡桜関(右)と鏡山親方。

道元禅師ものがたり

17



比叡山の権威に真っ向から

立ち向かいますがその結果は？

巨大寺院「東福寺」が姿を現す

延応元年（一二三九）、道元禅師の住む興聖寺とは伏見稲荷の山をはさんで北の対角線上に巨大な伽藍が建設され始めました。道元禅師の兄のライバルでもある摂政九条道家が高さ十五メートルの釈迦像を安置するために造っている大寺院だと言います。名前も東大寺と興福寺から一字ずつ取って「東福寺」になるとか。京都への行き帰りに目にする道元禅師にもその威容が次第に明らかになってきました。

仁治三年（一二四二）には、前年に宋から帰国した円爾和尚を開山に迎えて臨済宗のお寺になるという話が伝わってきました。しかし禅寺にはあるはずのない五重の塔がそびえています。比叡山に配慮して天台・真言・禅の三宗を融合したものになると言います。

『護国正法義』を天皇に上奏

こうした世の中の動きを見るにつけ、お釈迦様から達磨大師へ伝わり、如浄禅師をへて道元禅師に伝わった純粹禅こそ真正なものであり、「正伝の仏法」の名にふさわしいものではないか。この禅こそ、国を守る中心に置かなければならない。それを今こそ、後嵯峨天皇に裁可していただこう。

そう考えた道元禅師は『護国正法義』を書き上げて上奏しました。しかし、それを知った天台教団は烈火のごとく怒り、攻撃的な反論書を上奏したのです。そうなるも朝廷としても天皇の親可というわけにいかず、宗論の対決としてその是非を高僧に判定させることになりました。が、その高僧は比叡山の人でした。

「正伝の仏法」しりぞけられる

判定は「道元の説くところは、自己本位の勝手な解釈で、人々を救うどころか大乘仏教の根本理念に背いている」として道元禅師の『護国正法義』はしりぞけられたのです。判定が比叡山に任された時点で、道元禅師にもこの結論は予想されていきました。

ただ宗論対決に敗れると、かつての法然や親鸞のように流罪になっても不思議はないのに、今回は「物々しく沙汰に及ぶべからず」とおとがめなしで落ち着きました。天台教団が後嵯峨天皇に配慮したと言えそうです。

しかし、比叡山の荒法師がこのまま収まるとは思えません。いよいよ事態は風雲急を告げてきました。そのお話は次号といたしましょう。



臨南寺行事予定(三〜五月)

○ 彼岸会写経会

*三月二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

亡くなられた方やご先祖を偲びながら、二文字・文字心を込めて、お写経なさいませんか？ 大本山總持寺に納経させていただきます。(費用千円)

○ 彼岸会お墓経

*三月二十日・二十一日

午前十時〜午後三時(受付は随時)

どちらか都合の良い日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○ 春季彼岸会施食会

*三月二十四日 本堂にて

午後二時〜午後三時(受付は二時三十分まで)

亡くなられた方のためにお経をあげ、先祖供養の法要を行います。ご家族そろってお越しくださいませ。

○ 釈尊降誕会(花祭り)

*四月八日 午前九時〜 本堂にて

お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂前に安置した誕生仏様に甘茶を注いでお祝いします。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。

○ がっしょう園マトリ合同法要

*五月十二日 午後二時〜

本堂で法話を聞いた後、マトリで亡くなられた方のご冥福を祈ります。静かなお気持ちで一日をお過ごしいただけます。

無病息災・家内安全を祈願して

弁財天祈禱会



一月十五日、新しい年を迎えて弁財天祈禱会を修しました。今年がよい年になりますようお願いを込めて多くの方々が御参りになりました。法要の前に住職の挨拶や護寺会の会計報告がありました。法要のあと焼香を行い、破魔矢が授けられ甘酒が振る舞われました。



皆様の厄を払い福を招くよう祈念

仏道成就を願い 成道会法要

昨年十二月八日、成道会の法要を執り行いました。六年間の苦行で悟りを得られなかったお釈迦様が修行の山から下りて、菩提樹の下で結跏趺坐の禅定に入り、八日の朝悟りを開かれました。その故事にならって仏道成就を祈願しました。



「釈迦出山図」を祀って法要を営みました。

墓苑をご利用の皆様へ



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

お釈迦様の入滅をしのぶ 釈尊涅槃会



二月十五日はお釈迦様が入滅された日、涅槃会を本堂で修しました。涅槃会をお祀りし、供物をささげ、お経を誦読しました。法要のあと五色の涅槃だんごをいただきました。



お釈迦様の入滅をしのび感謝を捧げました。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半～ 本堂にて
*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時
写経料・千円 椋伽林一階にて

『修証義』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

妻から「この頃『まっ、いいか』とよく言うね」と指摘されて気が付きました。確かに口癖のようによく言っていました。100%思い通りにならなくても70%程度行けていれば良しとしてしまうのですね。歳のせいでしょうか、最近の世の中のせいでしょうか? (M)

「ほ～っと」41号

平成26年3月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com